様式2

令和7年度　清瀬市立清明小学校　学校評価表

学校教育目標

明るく豊かな心をもち　すすんで学ぶ児童の育成　〇よく見つめよく考える子　〇親切で思いやりのある子　〇健康でたくましい子

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】　皆(子供たち、教職員、地域・保護者)が笑顔になれるわたしたちの学校
1　子供たち一人一人が自分らしさを生かして、成長できる学校
2　教職員の個性や能力が組織の中でも発揮され、やりがいと誇りのもてる学校
3　「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者と地域と協働して子供を育てる学校

【目指す児童・生徒像】　1　学習の基礎・基本を身に付け、主体的に学びができ、自分の思いや考えを伝えられる子供
2　自分も他人も大切にする気持ちを、言葉や態度で表すことができる子供
3　互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出そうとする子供
4　すすんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な体をつくろうとする子供
5　何ごとにもねばり強く取り組み、最後までやりぬく子供
6　地域の一員であるという自覚を持って行動する子供

【目指す教師像】　教育公務員としての自覚をもち、公正・誠実・謙虚な態度で信頼される言動ができ、常に児童と共に歩み、共学、共働、共遊で人間的な関係を深め、児童理解に務めることができる教職員

育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動

・清明小学校の特色ある教育活動
　ユネスコスクール加盟校としてESD（education for sustainable development）持続可能な社会を構築する担い　手を育む教育を実践する。そのために、「環境学習」「伝統文化体験」を核に地域学習材を生かしながら、体験型探究学習を通して、何十年後先も地域を愛し、地域発展のために生かす力と予測困難な社会を生き抜くための知識と知恵、判断力を育む。また、多面的、総合的に考える力や生き抜く力を養うことを目指す。

①「環境学習」「伝統文化体験」：各教科で身に付けた知識や考え方を活用し、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育成。
②「特別支援教育」：特別支援学級「あおぞら」、特別支援教室「きらり」との「かかわり」や「他者理解」を特に大切にし、交流及び共同学習に取り組み、自分も他の人も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成。
③「読書活動」：本に親しみ、本から学び、想像力や読解力、豊かな心の育成。
④「清明未来塾」：学校支援地域本部と連携した放課後学習「清明未来塾」に取り組み、基礎・基本的な学力の定着や学ぶ喜びを実感。

前年度までの学校経営上の成果と課題

・地域学習材を活用した環境学習や伝統文化体験を全学年で実施することができた。今後、探求型体験学習をさらに充実させ、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を向上させていく。
・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。子供たちに学ぶ喜び、学ぶ大切さを実感できるような教育活動に取り組むため、日常の授業改善や学校全体で組織的に指導を行える体制づくりに取り組む

柱	具体的方策	自己評価 評価 取組指標	自己評価 評価 成果指標	自己評価 課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者評価 学校関係者による「自己評価」についての評価	次年度以降の改善方策 学校関係者評価の結果を踏まえた改善方法
学力の向上	毎時間めあてを明確に示したり、具体物の提示、ICT機器を活用したりして、分かりやすい授業を実施する。	3	3	課題　児童・保護者の約9割が、肯定的な意見であったが、実際にはできていないことに気付いていない児童が多い。自分の苦手に向き合い、その課題解決のために行動できる児童を育てていく必要がある。 改善方策(案) 児童の主体的に学ぶ態度を高めるために、分かりやすい授業を展開する。そのために、①単元や一単位時間の見通しをもたせる。②既習事項とのつながりを提示する。③個別最適な学びとなる教材を提示する。④1回の取り組み、一単位時間、単元での振り返りを行わせる。⑤児童に委ね、自分たちで活動する時間を確保する。	・タブレットを多くのクラスで使っているが、どんな場面で使用するのか。効果的な活用の仕方を考える必要がある。	単元で児童に付けさせる力や1単位時間の流れやめあてを明確にした授業・板書計画を立て、適宜、具体物やICT機器を利用した分かりやすい授業を行う。
	話し合い活動を取り入れるなど、児童の実態に沿った指導方法の工夫改善を行う。また、児童が自己の学習について振り返る時間を設ける。	3	4	課題　ICT機器を使った話し合いについて児童の9割は楽しいと感じている。しかし、ICT機器を使う意図は「学びを共有すること」が重要であるが、うまく活用できていないに学級がある。また、学級活動(1)についての研究を進めることで、児童に学びを委ね、児童同士で話し合うことができるための指導方法を共有し、それが主体的な学びを促進している。しかし、こちらも学級によって差がある。 改善方策(案) 今後も、OJT等で指導方法の工夫改善を行う。また、自己の学習を振り返る時間を取りより学習を深めていく。	・タブレットを意見交換などにもっと積極的に使用するとよい。 ・児童が実際にどんな学びをしているのか、見に行かないと分からない。学校は毎日開放しているというが、一人で教室には、入りにくい。	・「子供が考える時間」「対話を生む場面」「振り返りの活用」を大切にした授業を行う。 ・知識として入る → 納得する → 活用する　段階的な深まりとなるように、納得を引き出すための発問や活用につなげる場面を意図的に組み込んだ授業を行う。
豊かな心の育成	自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表れである「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。	3	4	課題　挨拶、返事に関しては、児童アンケートにおいて1学期も2学期も「とても」「思う」の合計が約9割だった。しかし、挨拶を返すことならばできるものの、自ら進んで挨拶するという観点では依然として課題があると思われる。後始末に関しては、机等へのいたずら書きや、使ったものをそのままにしたりし、徹底が図れていない。 改善方策(案) 次年度も引き続き代表委員会と調整して「あいさつ運動」を展開する。 また、上記運動期間のみならず、恒常的に「自ら挨拶」「返事」「後始末」を学級指導できるよう全職員に働きかけていく。	・清明小の児童は、挨拶は割とやってくれている。 ・「返事」「挨拶」「後始末」の全てのことは、本来家庭でやるべきものである。もう少し関わるとよい。	自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表れである「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。大人が率先垂範するとともに一言添えた挨拶をする。
	いじめ調査を定期的に実施し、実態を把握して早期発見・早期対応するとともに、未然防止のための指導を行う。	4	4	課題　児童の約9割が肯定的な意見であった。今年度いじめ認定件数は2件あったが、早期発見・対応により大事に至らず解消、観察継続となっている。昨年度より7%下がっているので、アンケートに頼らず児童の様子を良く見て声かけをし、根絶を図る。また、保護者アンケートでは「分からない」が52%と、他項目に比較してかなり高くなっていることも課題である。 改善方策(案) 来年度も、年度始めの職員への再徹底、いじめアンケート、アセスに関して適切な運用を行い、いじめの未然防止、早期発見・対応に結び付けていく。また、アンケートだけに頼らず児童をよく見て声掛けをしていく。	・いじめアンケートについて保護者の約50%が「分からない」と言っているのは、実際に関わっていない保護者は知らない。	・アセスについては、生活指導夕会(協議会)の時間を使って学年間での情報共有をしたり、SCから分布表の見方を指導を受けたりする。 ・自他の命の大切さや互いの違いを認め合う活動を各教科において実践するとともに、教職員が児童の人権を大切にした指導を行う。
健やかな体の育成	養護教諭と連携して、健康・保健学習を年間４回以上実施する。また、栄養士と連携して毎日の給食指導や食に関する指導計画の実施を通して、正しい食習慣を確立する。	4	3	課題　毎月の保健指導や、保険の授業、委員会の活動により、子供たちの保健に対する意識が高まった。しかし、手洗いや換気など常に意識をして児童が自ら行うまでには至っていない。学校全体の残飯を減らすことや、給食メニューをバランスよく食べることがまだ難しいため、伝え続けていく必要がある。 改善方策(案) 各学級で日直の児童中心に、中休み前に換気をする。習慣づけられるように引き続き声掛けを行う。また、バランスのとれた量を視覚的に見せる。(各学年ごと)可能であれば、低中高三段階の配膳された写真を配布する。	・本来、手洗いうがいなどの習慣や、食事などについては家庭でも意識していかなくてはならない。	・養護教諭と連携した心と体の健康についての学習を行う。 ・食事のマナーや命の大切さ，謝意を大事にできる食育を栄養士と連携して行う。
	体育科の授業を始め、新体力テストの結果も参考にしながら指導の改善を図る。また、学校だよりで運動の日常化と生活習慣の改善について掲載する。	3	4	課題:休み時間に学級ごと体育館遊びの時間を設定したことで、用具を使った遊びをするなど遊びの種類が広がった。新体力テストの種目ごとのやり方がわからず戸惑う児童がいるので、運動の特性やコツを理解させて周知していく必要がある。 改善方策(案) 教員に向けた体育の指導方法ののOJTを行うことで、さらに児童の運動に対する興味の向上を図る。	・体育館の開放はとてもよい。体を動かす集会も積極的のやっていくとよい。 ・廊下の体育着等が去年より落ちていない。	・市教研や外部で活用した教材や知識を広めるために教員に向けた体育のOJTを行う。 ・体力テストや体育学習等で児童の実態を考察し、課題を克服する指導改善や運動環境の整備に取り組む。
個に応じた支援	全教職員で学習環境づくりの情報共有を学期に１回以上行う。	4	4	課題　児童の8割は肯定的な意見であったが、保護者アンケートでは「とても」「思う」の合計値が6割であり、児童アンケートの結果と差が見られる。教室によって教室環境の整備に課題がある。 改善方策(案) ユニバーサルデザインを考慮した教室掲示に関しては異動してきた教員にも年度開始当初に説明し、引き続き浸透を図っていく。また、教室環境に関連する「清明スタンダード」も認識を深められるよう周知徹底していく。	・保護者にも、学校環境についてユニバーサルデザインを意識しているということを伝える必要がある。 ユニバーサルデザインという認識が、教員間で十分に共有されていないのかもしれない。	・ユニバーサルデザインを考慮した教室掲示に関しては異動してきた教員にも年度開始当初に説明し、引き続き浸透を図っていく。 ・教室環境に関連する「清明スタンダード」も認識を深められるよう周知徹底していく。
	特別支援教育担当教員と連携し、児童の実態を適切に把握するとともに、教員間で情報を共有し、個に応じた支援方法や指導を充実させる。 ※交流級については交流及び共同学習の実施	4	4	課題　児童の9割が肯定的な意見であった。可能な限り特別支援教室担任との連携は密に行い、個に応じた支援方法の充実を図った。しかし、保護者の肯定的な意見は7割となっており、さらなる子に応じた支援、指導が必要である。しかし、人的・物理的に体制が十分に整っていないことが課題もある。 改善方策(案) 春の人事異動後も引き続き知的障害特別支援学級と学級との連携の在り方について全教職員が認識を共通理解できるよう働きかけていく。	・今年も、あおぞら学級と地域との交流学習実施し、定着することができていた。	・新年度も引き続き知的障害特別支援学級と学級との連携の在り方について全教職員が認識を共通理解できるよう働きかけていく。具体的には、交流及び共同学習の推進に向けて、体験的な学習を一緒に行うなど時間割を整備すること、生活指導協議会等によって特別支援教育に対する理解促進、啓発等を行っていく。
本校の特色	「環境教育」「伝統文化」を核に地域学習財を生かした体験型探究学習を通して「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」等を育む。	4	4	課題　地域支援本部との連携は今年度も学期1回の打ち合わせ等によりスムーズにできた。また、図書館や地域の豊富な教育材を活用した問題解決型の授業も実施でき、児童の8割以上が、調べたいものを決め、調べて考えてまとめる学習をしているを行っていると回答している。学習発表会の準備等により「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」がやや向上したものの課題が残る。 改善方策(案) 次年度も地域支援本部との学期に1回以上の打ち合わせの実施等を通して、地域支援本部との連携を密にしていく。 今後も地域学習財について調べ、まとめる等の活動を通して「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育む。	・地域教材について調べたいものがあるというのが素晴らしい。 ・地域にも学んだことをPRしていくことが大切。	・地域に密着した「環境教育」や「伝統文化教育」を核に、体験型探究学習を通して、多面的、総合的に考える力や生き抜く力を養う指導を行う。 ・各教科で身に付けた知識・技能を他教科でも活用できるよう教科横断的なカリキュラム「ESDカレンダー」を活用し、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育む授業を行う。
	保・幼・小・中連携教育に向け、特別活動や行事等を中心に保・幼・中との系統性、連続性を踏まえた取組を実施する。	3	4	課題　児童の約9割、保護者の約8割が肯定的な回答をしている。保・幼・小・中連携教育では、清明小学校の取り組みを知ってもらう活動を行うことができた。今あるものをよりよく未来につなげる心を育成するという面では課題が残る。 改善方策(案) 自分も地域の一員として、何ができるのか考えたり、伝え合ったりする場をつくっていく必要がある。	・保・幼・小・中連携はとても重要である。今後も引き続き発展させて行うとよい。	保・幼・小中連携教育の9(11)年間の学びの連続性を意識した取組になるように努める。近隣幼稚園や保育園、地域にある施設との交流を行う。特別活動行事等を中心に中学校との連携した事業を実施する。